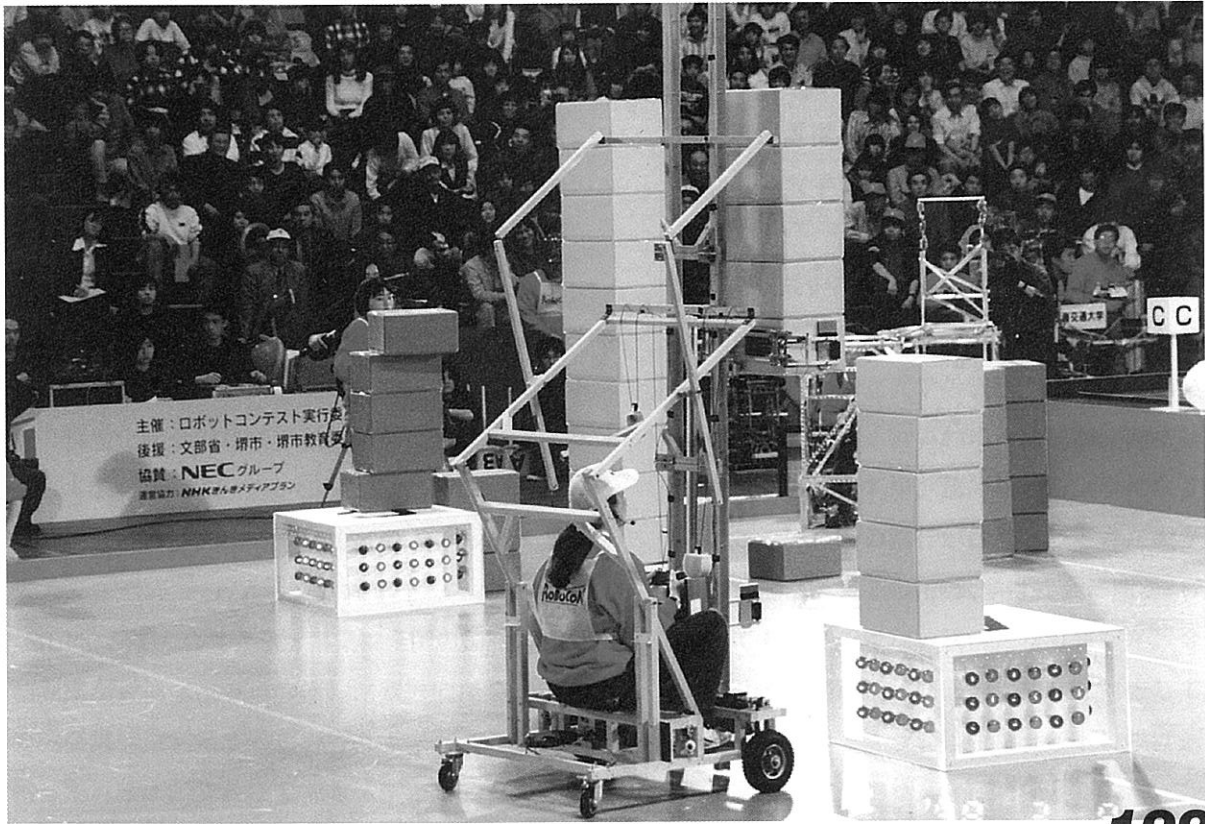


同窓会報

No. 15



豊橋技術科学大学



ロボットコンテスト優勝(3回目)ロボコン同好会

1998

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 後藤圭司

同窓生の皆さん、ご存じのように、9月26日のガルーダ・インドネシア航空機墜落事故によって本学はエコロジー工学系の大竹一友教授と富村勉事務局長を亡くしてしまいました。誠に痛恨の窮みです。これまでの本学への多大のご貢献に対して深く感謝の意を表すると共に、故人の貴重なご遺志を継いで地域との交流・連携や国際貢献に務めてゆく所存です。お二人のご冥福をお祈り致します。合掌。

さて、平成3年の大学設置基準改正等によって、各種の規制が緩和され、各大学一律ではなく、夫々の特徴を生かして発展することが求められるようになっていきます。ここ一、二年の間に以下のように更に大きな変革がありました。

まず平成7年には、高度情報通信社会推進をめざす我が国の基本方針が決定され、以来、種々の分野で情報化が全国規模で進められています。このうち本学に直接関係するものとしては、スペース・コラボレーション・システム(SCS)とマルチメディア・ユニバーシティ・パイロット・スタディー(MUPS)があります。SCS事業は全国の国立大学を結ぶ衛星通信ネットを整備し、双方向授業、研究会、会議等に利用するもので、本学もこの一翼を担っています。これは文部省メディア教育開発センターが主体となって行なう事業であり、平成9年度までには全国89の機関が通信衛星を介して結ばれる予定です。一方、MUPS事業は本学が主体と

なって行なう事業であり、高専への双方向授業の配信、社会人のリフレッシュ教育、マルチメディア教育と技術者の養成、学内事務の情報化等を目的としています。2月28日には本学にマルチメディアセンターが開所し、衛星通信による公開講座が既に実施されています。

同じく平成7年には、科学技術基本法が制定され、翌8年には科学技術創造立国をめざす我が国の科学技術基本計画が閣議決定されました。従来のように平等主義ではなく、これからは競争的研究環境が重視されるようになっていきます。これに向けて各大学では、大学院の重点化が進められています。

また平成9年度から、国立大学と私立大学間での授業科目の単位互換が認められるようになりました。さらに、国立大学の教官が企業に出向いて研究開発に従事する、いわゆる兼業が、勤務時間外の条件はありますが、認められるようになりました。これで種々の試行が行なわれてきた大学改革の施策はほぼ完了し、「大学は社会に開かれた」と言っても過言ではない状況になりました。今後は企業サイドが産学共同研究に如何に対応して下さるかが問題で、サジは企業サイドに投げ返されたと言えます。

同窓生の皆さん、公開講座への参加や共同研究等を通して、母校のさらなる発展のためにご支援ご協力をお願い致します。

学内近況報告

機械システム工学系

野田 進

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年まで厳しかった就職も、今年はかなり状況はよく、大半の学生が希望のところへ内定したようです。毎年実務訓練の視察に会社訪問をしていますが、昨年あるいは一昨年において、ある会社の役員の方が厳しい状況のなかで、今企業は蓄積の時と言われていたのが印象的でしたが、この回復の速さに改めて日本の企業は強いとの感を受けました。業種によっては未だ厳しい状況にあると聞きます。卒業生の皆さんが各分野で活躍されることをお祈りいたします。

さて、機械システム工学系の教官の異動状況をお知らせいたします。まず系長に蒔田秀治先生がなられました。第1講座では中川勝文先生が技術開発センター助教授に配置換えとなりました。第2講座には蒔田先生以外の人事異動はありません。第3講座では竹園茂男先生が技術開発センター長の併任となり、政府派遣職員としてインドネシアに出張されていた本間寛臣先生が8月1日付けで本系に戻られました。また九州大学応用力学研究所から陳建橋先生が助教授として赴任されました。また竹市嘉紀先生が技術開発センターの助

手として赴任され、本系の学生指導にあたられています。また系事務としてこれまでお世話になった永井一彦氏が研究協力系に配置換えとなり、新たに加藤悟司氏が担当されることになりました。

このような異動の結果、機械システム工学系の教職員は以下のような構成となっています。

【第1講座(熱・流体工学講座)】

教授：三田地紘史、日比 昭

助教授：北村健三、柳田秀記、中川勝文(技術開発センター)

講師：鈴木孝司

助手：中西康彦

【第2講座(エネルギー変換工学講座)】

教授：小沼義昭、蒔田秀治(系長)、高木章二

助教授：野田 進、鈴木新一

助手：山本和弘、関下信正、内山直樹

【第3講座(機器設計学講座)】

教授：竹園茂男(技術開発センター長併任)、本間寛臣、上村正雄

助教授：埜 克巳、畔上秀幸、陳 建橋、関東泰祐

助手：感本広文、竹市嘉紀(技術開発センター)

教務職員：李 長生

【技 官】 徳増 学、森川正治、神谷昌宏

【系事務】 加藤悟司、野亦真理子

生産システム工学系

竹中 俊英

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年には本学も20周年を迎え、盛大な式典を開催することができました。その際には、皆様よりいろいろとご協力、ご支援をいただき有難うございました。

今年度は系教官の異動がかなりございましたので、お知らせいたします。

加工学大講座では、永年勤続された中村雅勇教授が千葉大学教授として転任されました。また、有明高専より田中康德助手が着任されましたが、王力翬助手は辞職されカナダに渡られました。これにより研究室は、塑性加工(牧、原田)、接合加工(星、福本、田中)、精密加工(堀内、高巢、池野)となりました。

材料学大講座では、戸田裕之講師がスズキ(株)より、土谷浩一講師が北海道大学より着任されました。また、王磊助手が採用され、井上直也教務職員がサッポロ産機(株)より着任されました。一方、永年勤続された山本勇助手が大阪教育大学助教授として転任され、増山圭一助手は富山高専に講師として戻られました。また、Krishnamurthy Raviprasad助手は辞職され、オーストラリアのWestern Australia

大学に移られました。これにより研究室は、製錬工学(川上、竹中、横山)、機械材料(梅本、新家、土谷、王)、材料保証(小林、戸田、井上)となりました。

生産計画学大講座では、京都大学より清水良明教授が着任されました。これにより研究室は、システム制御(寺嶋、濱口)、計測システム(北川、三宅、堀畑)、システム解析(清水、崔、橋爪)となりました。

このような異動により、現在の生産システム工学系教職員は以下のような構成になっております。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍・ご発展をお祈りいたします。

【加工学大講座】

教授：星鐵太郎(系長)、堀内 宰(工作センター長)

助教授・講師：高巢周平、牧清二郎、福本昌宏、池野順一(工作センター)

助手・技官：原田泰典、田中康德、小楠和彦

【材料学大講座】

教授：小林俊郎、川上正博、梅本 実、新家光雄(系長補佐)

助教授・講師：竹中俊英、横山誠二、土谷浩一、戸田裕之

助手・教務職員・技官：王 磊、井上直也、白井宏始

【生産計画学大講座】

教授：北川 孟、清水良明、寺嶋一彦

助教授・講師：三宅哲夫、崔 文田

助手・技官：堀畑 聡、橋爪 進、濱口雅史、椿 正己

【事 務】 青木圭子

電気・電子工学系

内田 裕久

初冬の候、卒業生、修了生の皆様にはますますご健勝のことと存じます。

この1年の間に何人かの先生の異動がありましたので、お知らせいたします。まず、基礎電気電子大講座では、4月に小川陸郎先生が(株)神戸製鋼所から教授として赴任され、そして井上光輝先生が助教授として東北大学へ移られ、菊地章先生が東京高専に戻られました。電気システム大講座では、今年度の異動はありませんでした。電子デバイス大講座では、4月に石田誠先生が教授に昇進され、蔵之内真一先生が長野高専から助手として赴任され、そして辛長奎先生が韓国に戻られました。8月には若原昭浩先生が京都大学から助教授として赴任されました。

このような異動の結果、電気・電子工学系の教職員は右記のような構成になっています。

末筆ながら、皆様のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。

[基礎電気電子大講座]

教授：藤井壽崇, 英 貢(系長補佐),
太田昭男, 小川睦郎

助教授：服部和雄

講師：ガバレロフ・ワジム, 内田裕久

助手：大越昌幸

教務職員：河野健二

技官：前田勝典

[電気システム大講座]

教授：小崎正光, 榊原建樹, 恩田和夫

助教授：長尾雅行

講師：滝川浩史

助手：見目善重, 村本裕二, 伊藤衡平

技官：日比美彦

[電子デバイス大講座]

教授：吉田 明(系長), 米津宏雄, 石田 誠

助教授：朴 康司, 若原昭浩

助手：大島直樹, 松本佳宣, 吉越章隆,
蔵之内真一(技開センター)

技官：足木光昭

情報工学系

川人 祥二

卒業生、修了生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。さて、情報工学系の状況についてお知らせいたします。

まず計算機大講座では、京都大学大学院工学研究科より、中島浩先生が教授として赴任されました。また、助教授の井上克己先生は、神戸大学工学部に転任されました。東京大学理学系研究科より、高田広章先生が、講師として赴任されました。

情報処理大講座では、ソニー(株)より、福村直博先生が助手として赴任されました。

情報システム大講座では、助手の肖業貴先生が、佐賀大学理工学部へ助教授として、移られました。また、慶應義塾大学の大学院博士課程を修了された上原秀幸先生が、助手として赴任されました。

このような異動等により、現在の情報工学系教職員の構成は、右記のようになっています。

計算機大講座の教務職員でありました貴島寿郎先生が、9月9日逝去されました。ご冥福をお祈り致します。

大学の公式ホームページが6月から開設されています。URLアドレスは、<http://www.tut.ac.jp/>です。情報工

[計算機大講座]

教授：中川聖一, 中島 浩

助教授：梅村恭司

講師：奥山 徹

講師：高田広章

助手：峯松信明

技官：片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教授：臼井支朗, 金子豊久, 宇野洋二

助教授：戸田尚宏

講師：片山正純

助手：中内茂樹, 廣田光一, 福村直博

[情報システム大講座]

教授：宮崎保光, 田所嘉昭, 横山光雄

助教授：後藤信男, 川人祥二

講師：伊藤大雄

助手：黄 新民, 上原秀幸

技官：宮脇治雄

学系の各研究室の活動状況がよく分かると思います。一度ご覧になってみて下さい。

最後に、教職員一同、卒業生・修了生の皆様のご健康とご発展をお祈りしております。

物質工学系

水嶋 生智

卒業生、修了生の皆様、お元気で活躍のことと存じます。昨年度の同窓会報発行からの物質工学系の異

動をお知らせします。

長年にわたり物質工学系のためにご尽力いただきました永島英夫先生が4月1日付けで九州大学機能物質科学研究所に教授としてご栄転されました。新天地での益々のご活躍を期待いたします。一方、武藤浩行助手

が無機材料工学研究室(逆井研)に、似内靖助手が生化学研究室(青木研)に、また、12月1日付にて岩佐精二助教授が応用有機化学研究室(西山研)に、それぞれ着任されました。また、事務官の奥田重美さんが学生課に移られ、代わりに大宮明代(旧姓近藤)さんが施設課から来られました。現在の物質工学系の構成は右記の通りです。

今年度から同窓会役員として新たに武藤氏に加わり、水嶋、川口、佐藤、大北、武藤の5名で大学全体の同窓会活動および物質工学系の名簿管理を行っております。昨年からの物質工学系同窓会用のE-mailアドレス(dousou-5@tutms.tut.ac.jp)を設けましたので、住所・勤務先等の変更、お問い合わせ、ご意見、等をお気楽にお寄せ下さい。

皆様のご健康と一層のご活躍・ご発展をお祈り致します。

[工業無機化学大講座]

応用物理化学研究室 : 亀頭直樹 教授, 大串達夫 助教授, 佐藤裕久 助手
無機材料工学研究室 : 逆井基次 教授, 前田康久 講師, 武藤浩行 助手
無機物性工学研究室 : 角田範義 助教授, 水嶋生智 講師,
大北博宣 教務職員

[工業分析化学大講座]

分離定量分析化学研究室 : 神野清勝 教授, 平田幸夫 助教授,
武 静 教務職員

化学工学研究室 : 小松弘昌 教授

生 化 学 研 究 室 : 青木克之 教授, 吉田祥子 講師, 似内 靖 助手

[工業有機化学大講座]

有機材料工学研究室 : 伊藤浩一 教授, 伊津野真一 助教授,
川口正剛 助手

応用有機化学研究室 : 西山久雄 教授, 岩佐精二 助教授, 本山幸弘 助手

複合材料工学研究室 : 竹市 力 助教授, 西宮伸幸 助教授, 松本明彦 助手

[分析計測センター]

状態分析化学研究室 : 加藤正直 助教授, 服部敏明 助手

[技 官] 太田初一, 斉藤年秀

[事務官] 大宮明代

建設工学系

三 宅 醇

卒業生、修了生の皆さんは、お元気で益々御活躍のことと思います。時々、大学へも顔を出して、教官とも旧交を温め、後輩に喝を入れて下さい。

この1年間の最大の出来事は、小野木重勝教授の停年退官でした。宮内庁・松江高専などの歴任の後、当大学でも17年間にわたり、教鞭をとられ、コンドルの研究などに基づく建築学会賞受賞、旧東海道二川宿本陣の復元設計、地域での各種委員会での御活躍など、当大学の名声確保に大きな役割を担ってこられた足跡は極めて大きなものがあります。学内の最終講義の他に、5月には記念シンポジウム、退官記念祝賀会が盛大に行なわれました。小野木先生は愛知工業大学教授として活躍されますし、豊橋技術科学大学名誉教授も受けられました。

同時に、西澤泰彦助手が母校名古屋大学の助教授に迎えられて御栄転になりました。これらに続いて、計画大講座での廣島康裕助教授の教授昇格と野澤隆秀教務職員の助手昇格があり、環境大講座・衛生小講座に西

村和之助教授が、計画大講座に泉田英雄助教授、山中正樹教務職員が就任されました。

本年度から、角徹三教授が系長を、中村俊六教授が同補佐を務めておられます。カリキュラム変更に伴って、3年生の負担の軽減、3年3学期でのゼミ配属などの新機軸が打ち出されて実行中です。

本学系は、全国的にも珍しい、建築・土木のミックス化を試行中ですが、この評価をめぐって色んな意見があり得ます。卒業後、15年以上もたつて中間管理職以上の立場となり、仕事も「企画」中心になった時に、建築・土木両分野が、片方はプロとして分かっているし、他方は一応学んだことで大体分かり、プロの友人が同窓生の中にいる、というメリットがあるだろうと考えています。

2分野の双方のプロとなるのは大変だし、仕事の分野もまだ出てきていませんが、両分野の分かる人間として、他分野のプロを友人にもっている人間としてのメリットを是非とも把んで貰いたい、と考えます。また、そうした実例があったら、是非教えていただきたいものです。その意味でも同窓会の活性化を心から期待いたします。

知識情報工学系

増 山 繁

卒業生、修了生の皆様、お元気で活躍のことと思います。さて、知識情報工学系の近況についてお知らせ

致します。

まず、本年度より本系にマルチメディア教育工学小講座が新設され、それに伴い、従来の4コースが下記の現況に示すように3大講座(各大講座, 3小講座分の定員)として整備、再編成されました。これを機に、教職

員一同、決意も新たに、研究・教育をより一層充実させるよう努力していく所存です。

次に、本年の先生方の異動は以下のとおりです。

情報科学大講座では、1月に名古屋大学より市川周一先生が、更に、4月に吉岡貴芳先生が豊田工業高専よりそれぞれ着任されました。一方、本系創設時より多大な貢献をされてきた教授の斉藤制海先生が6月に千葉大学工学部へ転任されました。また、8月に増山繁が教授に昇任致しました。

分子情報工学大講座では、小澤理樹先生（東京大学大学院博士課程修了）が、4月に着任されました。

以上の異動を含めた平成9年11月現在の知識情報工学系の現況は、右記のとおりです。

系のWWWホームページのURLは、

<http://www.tutkie.tut.ac.jp/>

です。系の現況についてより詳しくはそちらをご覧ください。リンクをたどることで、各研究室の現況も知ることができます。

末筆ですが、卒業生、修了生の皆様のご健康と、ますますの御発展、御活躍、御多幸をお祈り申し上げます。また、後輩の就職、実務訓練等で何かとお世話になると思いますので、その際には、くれぐれも宜しくお願い申し上げます。

エコロジー工学系

成瀬 一郎

本エコロジー工学系は、平成5年度に世界に先駆けて設立され、本年度には新たに大学院であるエコロジー工学専攻が設置されました。写真に示すとおり、昨年10月にエコロジー工学系教官研究棟が完成し、教官ならびに学生の居室と実験室の一部が整備され、ようやくエコロジー工学の拠点ができました。

平成9年8月現在の本系教職員ならびに学生現員は以下の通りであり、系長は鈴木慈郎先生、系長補佐は笠倉忠夫先生であります。

教職員の異動は、平成9年3月より松澤有希子先生が文部省在外研究員としてアメリカ・ミネソタ大学に滞在中、4月より黄霞先生が母校である中国・清華大学にて活躍されております。また、大竹一友先生は、本学の代表として7月より2年間、外務省・国際協力事業団（JICA）インドネシア高等教育開発計画長期派遣専門家としてインドネシア・メダンに赴任されております。一方、6月より協力教官でありました辻秀人先生が本系教官として仲間入りされました。

近年、エコテクノロジー、ゼロエミッションなどの言葉をよく耳にします。本系は、まさしくこの分野の最前線の研究を担っており、エコロジー工学という新たな学問体系を創製すべく努力いたしております。同窓会としては新参物ですが、御支援、御鞭撻の程、よ

[情報科学大講座（社会経済情報工学分野を含む）]

教授：磯田定宏、増山 繁

助 教授：河合和久、赤松 隆

講 師：市川周一

助 手：徐 粒、吉田 敦、吉岡貴芳（技術開発センター助手、協力教官）

[分子情報工学大講座（分子設計工学講座を含む）]

教授：大澤映二、阿部英次、スラニナ・ゼネック

助 教授：高橋由雅、船津公人

助 手：栗田典之、小澤理樹

[機能情報工学大講座（マルチメディア教育工学講座を含む）]

教授：伊藤嘉房、山本真司

助 教授：杉田陽一

助 手：ラザフィマンテナ・エドアルド・アンジアナ
リジャウナ

[事務室]

教 務 係（技官）：小西和孝

学 務 係：熊谷政希

[学生現員（平成9年4月1日現在）]

学 部：1年次11名、2年次10名、3年次56名、
4年次57名

修 士：1年次45名、2年次40名

博 士：1年次3名、2年次3名、3年次11名

ろしくお願いいたします。なお、エコロジー工学系の紹介ホームページも充実して参りましたので、是非、以下のアドレスにアクセス下さい。

<http://www.eco.tut.ac.jp/>

[生物基礎工学講座]

教授：鈴木慈郎、菊池 洋

助 教授：S. S. Siddiqui、平石 明、桂 進司

助 手：安田八郎、松澤有希子、田中照道

技 官：坂井悦子

[生物応用工学講座]

教授：笠倉忠夫、水野 彰、藤江幸一

助 教授：田中三郎、辻 秀人、胡 洪堂

教務職員：村松 東

[生態環境工学講座]

教授：大竹一友、北田敏廣

助 教授：木曾祥秋、金 熙濬、成瀬一郎

講 師：Del Carpio C. A.

教務職員：倉田学児

[事務]

石黒真樹、大原美枝子

[学生現員]

学 部：1年次11名、2年次10名、3年次60名、
4年次63名

修 士：1年次39名

最後に、同窓会の皆様のより一層の御健闘と御発展をお祈りいたします。

追記

大竹一友先生は、去る平成9年9月26日インドネシアの航空機事故で御逝去されました。本稿は、大竹一友先生の生前に記したものであります。ここに、故人への生前の御厚情に感謝致しますとともに、謹んで哀悼の意を表します。



エコロジー工学教官研究棟の全景

人文・社会工学系

加藤 三保子

平成9年9月1日現在の人文・社会工学系および語学センター、体育・保健センターのスタッフは右記のとおりです。

なお、本年4月より、寺澤猛先生が図書館長に、山本淳先生が語学センター長に、安田好文先生が体育・保健センター長にそれぞれ就任されました。また、大呂義雄先生は本年度いっぱい定年退官なさいます。渋澤博幸先生が7月に結婚なさいました。

【人文・社会工学系】

教授：大呂義雄，山内啓介，山口 誠，浜島昭二，宮田 譲
助教授：尾碇一志，西村政人，相京邦宏，平松登志樹，加藤三保子
講師：村松由起子
助手：渋澤博幸
外国人教師：リチャード・マーシャル
事務職員：宇津山豪一

【語学センター】

教授：野村 武，山本 淳，小杉隆芳，伊藤光彦
助教授：野澤和典，河合弓子
教務職員：鈴木聖子

【体育・保健センター】

教授：寺澤 猛，安田好文
助教授：大貝 彰

「最新の研究情報」の発行

本学教官の最新の研究動向を社会に広く迅速に公開するため平成4年から毎年「最新の研究情報」誌を発行していますが、このたび平成9年5月現在の最新号を発行しました。

これは、主として共同研究、技術相談など産学交流に役立てていただくため、昭和61年度から発行してきた「教官研究課題一覧」を見直し、充実を図ったものです。

内容は、1人1ページ、各研究テーマごとに「研究概要」を非専門の中間管理職の方にも分かり易いように紹介し、「キーワード」を設ける等、他大学にはない新しい試みで編集してあります。

また、目的の情報に効率よくアクセスできるよう目次欄で詳細な研究分野を網羅しました。

各教官自身で作成した原稿をそのままダイレクト印刷して、2,000部を発行しました。まだ余部がありますので、御希望の方は角2型(33cm×24cm)封筒に返信先を記入、返信料340円切手を貼付し、次の申込先にお送りください。

なお、本年度版がなくなった場合は、少々お待ちいただき来年度版をお送りしますので御承知ください。

「最新の研究情報」(平成9年5月現在)

申込先：

〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学教務部

研究協力主幹付研究事業係

Tel. 0532-44-6573 (ダイヤルイン)

大竹一友教授，富村勉事務局長の急逝を悼む



故 大 竹 一 友

- 略歴 昭和12年3月25日生 朝鮮京畿道京城府
- 学歴 昭36. 3 東京工業大学理工学部機械工学科卒業
38. 3 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程(機械工学専攻)修了
46.10 工学博士の学位取得(東京工業大学)
- 職歴 38. 4 東京工業大学理工学部助手
47. 4 東京工業大学工学部助教授
53. 4 豊橋技術科学大学工学部教授(エネルギー工学系)
平成. 4 豊橋技術科学大学大学院工学研究科総合エネルギー工学専攻主任(期間：平成元年4月～平成6年3月)
元. 8 豊橋技術科学大学技術開発センター長(期間：平成元年8月～平成3年7月)
5. 4 豊橋技術科学大学工学部教授(エコロジー工学系)
6. 4 豊橋技術科学大学エコロジー工学系長(期間：平成6年4月～平成9年3月)
9. 7 インドネシア共和国政府教育省高等教育総局(ジャカルタ)派遣職員
9.9.26 死亡
- 受賞 昭48. 9 日本機械学会論文賞受賞
61. 9 谷川熱技術振興基金 第1回粉生熱技術振興賞受賞



故 富 村 勉

- 略歴 昭和22年11月25日生 山口県
- 学歴 昭46. 6 東京大学法学部卒業
- 職歴 46. 7 文化庁文化財保護部管理課
49. 4 文部省大臣官房総務課審議班
50. 7 文部省大臣官房総務課審議班審議第三係長
51. 1 文部省初等中等教育局職業教育課企画調査係長
53. 8 文部省学術国際局学術課学術振興係長
54. 7 文部省学術国際局学術課課長補佐
54. 7 広島県教育委員会教育部保健体育課長
56. 9 文部省学術国際局ユネスコ国際部企画連絡課専門員
57. 2 在タイ日本国大使館一等書記官
60. 3 文部省学術国際局国際企画課専門員
60. 4 文部省学術国際局学術調査官(併：科学技術庁計画局計画課専門調査官 S62.4.1まで)
62. 4 文部省社会教育局社会教育課研修企画官
63. 4 宮崎大学庶務部長
平成2.10 東京国立近代美術館庶務課長
5. 4 東京国立博物館総務部長
8. 7 豊橋技術科学大学事務局長
9.9.26 死亡

学長 後藤 圭 司

去る9月26日(金)午後6時過ぎに本学公開講座の開講式があり、挨拶を終えて帰宅直後、NHKテレビニュースでガルーダインドネシア航空機事故を知りました。大竹一友教授と富村勉事務局長の名前が搭乗者名としてテレビに映し出されたのを見て、愕然としました。搭乗できなかった場合もありうる、と望みをもって連絡を待っていましたが、私どもにとって、最悪の結末になってしまいました。幹部を一度に二人も亡くしてしまい、残念でなりません。

最新の報道によると、墜落事故の原因は航空管制官の誘導ミスらしいとのこと。また、インドネシア国中に広がった煙害による視界不良も原因の一つでしょうが、これも人災と言えるでしょう。

故大竹教授は7月1日から2年間の予定でインドネシアへ渡航されていました。国際協力事業団イン

ドネシア国高等教育開発計画プロジェクトの長期派遣専門家として、北スマトラのメダンに常駐し、近隣の5大学を含めて合計11大学の教育研究支援を行なう予定でした。一方、故富村事務局長は9月15日から10月1日までの予定で短期派遣専門家として出張中でした。本学から毎年10名の教官が短期専門家として派遣されてきましたが、今回は事務サイドから初めての参加で、大学の管理・運営の支援、日本政府奨学制度の情報提供、さらには今後の国際協力の在り方の調査等が目的でした。

これまでの本学へのご貢献に対して厚く御礼申し上げると共に、産学交流・連携や国際協力に対するお二人のご遺志を大切にしていきたいと思えます。

どうか安らかに眠り下さい。

副学長 穴 山 武

9月26日夕刻、私は、大竹教授と富村事務局長の遭難を告げるNHKニュースを、一瞬わが目を疑う思いで見入っていた。

その2日前、私は、9月24日付けの電子メールを大竹先生から頂いている。それには、富村事務局長と元気でHEDSプロジェクトの関係大学を歴訪中と前書きして、次のような一文が記されている。

「さて、事務局長から、穴山先生より託されたという本学と高専などを結ぶ情報ネットワークを、海外まで拡げる件、ぜひ実現の方向で検討いたしたく存じます。…後略…」(原文のまま)

このメールを手にして私の心は踊った。お2人の手によって、豊橋技術科学大学とインドネシアの諸大学を衛星を通じマルチメディアネットワークで結び、本学が進めているMUPS事業の海外展開を図ること

ができる。このような夢を心に描き、数日後の富村事務局長の帰国を心待ちにしていた矢先の、余りにも思いがけないインドネシア航空機遭難のニュースであった。

大竹先生とは「エネルギー特別研究」以来10数年のお付き合いである。富村事務局長とは1年3ヶ月の短期間ではあるが、官舎が隣り同士で、殆ど毎日、行き帰りを共にした親しい仲である。大学の将来についても、忌憚なく意見を交せる得がたい友人であった。

メダン近郊での航空機事故は、一瞬にして2人の友の生命を奪い、私のMUPS事業の国際展開という夢を打ち砕いてしまった。

私はいま、お2人の志を引継ぎ、お2人のご遺志を後世に伝えることを心に誓いながら、ひたすらご冥福を祈っている。

副学長 提 和 男

「それでは12月にインドネシアで会いましょう」。8月末の西の原のバス停での大竹先生との最後の会話である。先生は一時帰国シタンザニアへのご出張前、私はJICAの仕事でタイ出張から帰ったばかりの暑い日だった。インドネシア高等教育開発計画(HEDS)プロジェクト3人目の長期専門家として現地に赴任されその活動は軌道に乗り始めていた。7月末にはHEDS調査団に国内委員の一員として訪伊し現地でのHEDS対象大学工学部長会議と合流して、先生とはHEDSの今後あるいは大学の国際交流・貢献の話をしたばかりだった。在伊1ヶ月を過ごされた先生は、工学部長に工学のあるべき姿を熱く問いかけエコロジー工学の重要性を謳っていた。ご自身

の長年にわたる工学と国際貢献の経験を一刻も早くなるべく多くの人達に伝えようという姿が記憶に残っている。

富村さんからは短期専門家で派遣される際の講演テーマで相談を受けた。対象大学において行政的な管理・運営の改善の余地を痛感していたのでそれに関連する日本の体制、および文部省の国際協力の現状を伝えて欲しい旨話した。在タイ一等書記官のご経験を踏まえてさぞや有意義なご講演をされたことと信じている。

全力で駆け抜けそして異国で去られたお二人を追悼し、そのみたまに万感の思いを込めて合掌。

大竹一友教授をしのんで

エコロジー工学系長 鈴木 慈郎

大竹先生は忽然と姿を消してしまわれた。本当に去って行かれたのであろうか。私はまだ信じる事が出来ない。8月の半ばには、講演があるからと戻って来られ、廊下での立ち話、そしてあの笑い声を聞かせて頂いた。Eメールは、時を選ばず彼の地から飛んで来た。確かに赴任されたのではあったが、大竹先生の分身、あるいは存在感といったものが、大学のいたる所に漂っているように私は感じていた。あの日以来、あの笑い声を聞くこともなければ、Eメールが飛んで来ることもない。しかし、大竹先生の存在感ともいべきものは、依然として消えずに残っている。

大竹先生には、色々な場面で啓発して頂いた。少し前のことであったが、8系の教官の談話会でのお話しには、啓発されるというよりは、驚かされた。豊橋の地にエコロジー・パークを作ろうというものであった。環境への負荷を最少にした生産システムを実際に稼働させ、なお、それを一つのコミュニティ・パークにもしようというプロジェクトであった。「えっ、そんなこと出来るの」というのが、その場での私の反応であった。「いや、豊橋市長にも説明しましたが、結構乗り気でしたよ」と、例のスマイルで軽くかわされた。先生が中心となって、地元の企業を説得されてゼロ・エミッション研究会を発足なさっていること、様々な機会をとらえて廃棄物の実態にも目を注がれていることを、私が知ったのはその後のことであった。

先生がインドネシアに行かれるというお話も直接伺ったが、これにも驚かされた。HEDSプロジェクトについては聞き及んでいたが、どうしてこの時期にご自分が飛ばれるのか分からなかった。豊橋の地にも幾つものお仕事を抱え、ISO14000の委員もなさっていて、何故このプロジェクトにも手を出そうとされるのか。しかし、その解答はすでに頂いているように、今は思われる。この大学が生き残るためという、先生のご提案が最後のEメールであった。彼の地で、大竹先生は彼の地の環境問題も含めて色々なことをなさりながら、そしてそれらを全部ふまえた上で、大学の行く手に思いを巡らしていたのであったと。

機械システム工学系長 蒔田 秀治

大竹先生が不帰の客となられてから、一ヶ月。しかし、大竹先生は我々に今だ多くの忘れ得ぬものを残しておられる。それは先生の多岐にわたる学問的業績や社会的貢献の大きさとといったものみによるものではない。勿論、それらは極めて優れた先見性と、我々の域を遥に越えたスケールを有するものであったことは確かである。しかし、なによりも先生が御生前に我々と接して下さった時の使命感に満ちた磊落なお人柄が今だに我々を包んで下さっているからに違いない。

18年前、先生は私を本学にお招き下さった。その時、高専卒業生を主対象とした本学設立の意義について情熱を込めて話して下さいたことを今も憶えている。また、常々実践的技術教育の重要性を口を極めて説かれていた。着任直後、何の技術も持たない私は、深夜密かに研究室の片隅で実験装置製作指導のため溶接の練習をしていた。背後で急に豪快な笑い声がした。「蒔田さん、溶接はこんな風にやるんですよ！」と言われつつ先生は私の手から溶接棒を受け取ると、早速、溶接の腕前を披露して下さいた。その手つきの見事なこと！その時、「真に実践的な教育者とは何か」と言うことを身をもって示して下さいたと今も思っている。未熟な教育者だった私は、それ以来、大竹先生を目標として努力を重ねてきた。その間、先生から受けた御教示や御支援は枚挙に遑がない。時に温かく、また、時に厳しいものであったが、その中に微塵も先生の“私”を感じさせるものはなかった。

先生は大学人の社会的貢献の必要性を常に意識されていた。エネルギー工学系の基礎を固めた後、エコロジー工学系の創設に参画され、その間あらゆる機会を通じて地域社会へ情報発信を試みられ、更にJICAを通じて国際的貢献に着手された。今、大学の存在そのものが問われている時、先生の御意志を受け継ぎ、本学の発展のためにより一層の努力を心に誓うことこそ、後に残された我々の責務であり、真に大竹先生の御冥福をお祈りすることになると思われる。

富村 勉 事務局長をしのいで

総務部長 細江 保司

インドネシア航空機事故により富村事務局長が亡くなられてから2ヶ月が過ぎようとしておりますが、現在でも部屋にいると電話が掛かってくるようでとても信じられない気持ちであります。局長とは文部省職業教育課と本学で2度お仕えたこともありまして、気さくに何事でも相談ができましたし、仕事も任せていただくことが大変多かったように思います。最近では、平成10年度概算要求事項について文部省との折衝経過を報告しますと、この厳しい財政状況の中でよく頑張ってくれたと喜んでくれたことが脳裏に焼き付いております。局長とは大学の学生食堂で昼食を一緒にすることが多く、話題は大学の将来、近郊の名所・旧跡、趣味、单身生活のこと等いろいろお話をしました。その際、局長はあまりご家庭のことには言及されなかったが、ときどき家族と近郊をドライブされたことを話され、家族との絆を大切にされている思いがしました。

今回のインドネシアへの出張は、本学が支援している高等教育開発計画を実地に見聞し、大学の将来構想に生かすことができないかという思いで行かれたことと思います。残された我々は、こうした局長の遺志を受け継ぎ、今後の大学の将来構想に生かしていきたいと思っております。

富村事務局長のご冥福をお祈り申し上げます。

教務部長 笹沼 忠

富村局長は、昨年7月に本学に赴任され、10月には本学の創立20周年を共に祝い、11月には本学が当番の国立単科大学事務局長会議の議長を見事に努められた。

局長は、温厚、誠実なお人柄にして、仕事に対する情熱は明晰にして徹底した探求心をおもちでした。

また、職員からは、親しまれ、尊敬されていた。

ある時、職員の親睦会で、カラオケに行き、ついに局長もマイクを握った。その歌たるや私同様のオンチの部類で、一層局長に親しみを感じたものでした。

その後、しばしば昼休み等に執務室にお邪魔した。局長は常に何やら細かいメモを整理中であつたりしたが、私の雑談に応じていただき、在タイ大使館時の話として、タイの気候・風土や僧侶から女性の話に至り、タイの女性は昔の日本女性を彷彿させるものがある等の話だつたりした。またある時などは、2人の高校生のお嬢さんの話になると目を細められた笑顔が今も忘れられない。局長は日頃病身の私に大変気を使っていただき、私は心から感謝しておりましたが、その優しくて春秋に富んだ局長が忽然として、黄泉の国に旅立たれもうお目にかかれなと思うと、淋しさはこのうえない。ここに謹んで富村局長のご冥福をお祈りいたします。

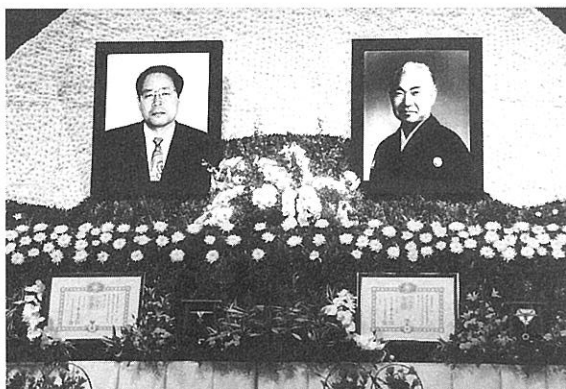


平成8年10月9日 開学20周年祝賀会において



平成8年11月28日 平成8年度国立単科大学事務局長会議
(本学特別会議室)において

大 学 葬



去る9月26日にガルーダ・インドネシア航空機墜落事故により逝去された大竹一友教授、富村 勉事務局長の大学葬が、10月31日(金)午後1時30分から愛知県豊橋勤労福祉会館でしめやかに執り行われた。

式には、遺族、文部省、国際協力事業団をはじめ、教育界、経済界から、友人、知人等が多数参列され、本学の学生、教職員ら総数900名が、故人との最後の別れを惜しんだ。

式典は、参列者全員が故人の冥福を祈って黙祷を捧げ、次いで葬儀委員長の後藤豊橋技術科学大学長が告別の辞を述べ、社会に開かれた大学として産官学共同、地域社会との連携、国際協力についての数々の業績をたたえ、本学へのご貢献のお礼とお二人のご遺志を大切に、大学改革に反映することを霊前にて誓った。

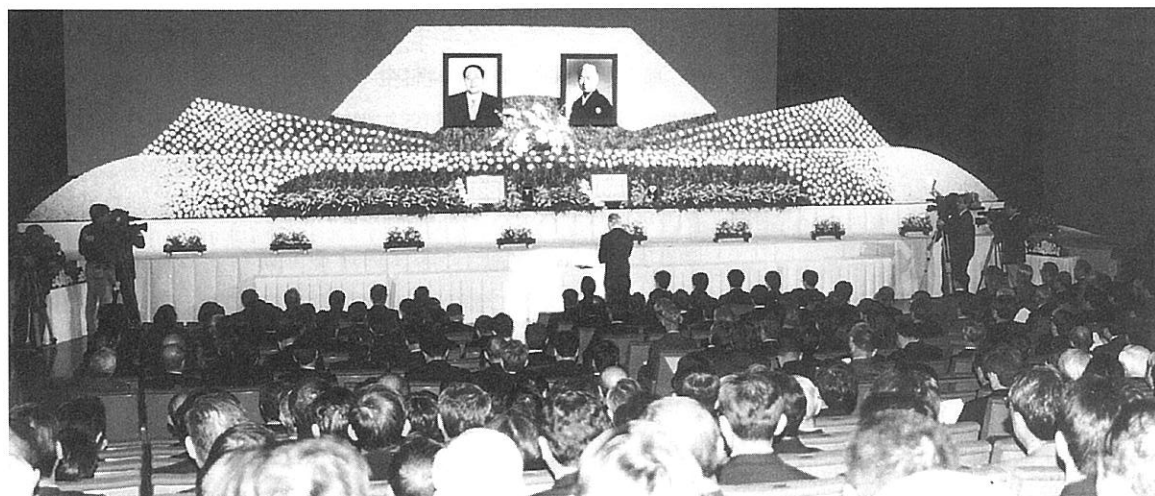
弔辞は、町村信孝文部大臣弔辞を両宮忠学術国際局長が代読し、インドネシア国高等教育開発計画プロジェクトによる工学教育の振興に取り組んでいたこと、二人が仕事半ばにして成し遂げることができなかった国際協力へのプロジェクトに十分な成果を上げる最善の努力をすることを述べられた。

引き続き、藤田公郎国際協力事業団総裁が、プロジェクトの推進において、豊橋技術科学大学は主要な支

援機関であり、多くの技術協力専門家を派遣し、内外の高い評価を得ていたこと、また、バンバン・ソヘンドロインドネシア教育文化省高等教育総局長(星第二工学系教授訳文朗読)からは、工学教育の高度化を支援するために「HEDS 富村・大竹基金」の設立計画があり、将来の教育に大きく資することを願っていること、インドネシアと日本の高等工学教育の虹の架け橋となることを述べられた。

次いで、早川勝豊橋市長が豊橋市政の環境問題に関して専門分野を生かした指導をされ、ゼロエミッションを実践・学習できるテーマパークの提案等をされたことや、二人は心優しい市民であり、多くの方から慕われた人柄であること、国際的都市「豊橋」を今後も築いていくことを述べられた。さらに、神野信郎豊橋商工会議所会頭(豊橋技術科学大学協力会会長)から、国家的見地を見極めつつ技科大が地域の中で果たす役割を構築されていたことによる、産業界への貢献についての弔辞を読み上げられ、二人の功績をたたえるとともに、突然の逝去を悔やまれた。

最後に、遺族及び大学を代表して、穴山副学長が謝辞を述べられた後、参列者全員が順次献花を行い、故人との最後のお別れをして冥福を祈った。



貴島寿郎君をしのんで

情報工学系 奥 山 徹

貴島君の訃報に接してから既に長い年月が過ぎ去ったように感じますが、実はまだ半年しか経過していないのです。私が彼の消息に対する最初の報に接したのは東京でのロングランの会議を行っている最中でした。長引く会議の席上を抜け出し受けた電話だけでは要領を得ずに、いったい何が起こったのか分からぬまま会議場を抜け出して帰途を急いだのを昨日のこのように覚えています。

貴島君は豊橋技術科学大学学院の出身です。したがって、私にとっては後輩にあたる（もちろん、技科大出身者にとって同窓生に成るわけです）人物です。そのようなことから彼が大学院に在籍中から種々の関係があり、本学の職員として採用されてからも特に親しいという間柄ではありませんでしたが、色々な形で話をする機会がありました。彼は温厚な人物で、私に言わせれば少しおとなし過ぎるくらいであると思っていました。彼が学生と激論する場面はあまり見かけることはなく、学生達にとっては兄貴分的存在ではなかったかと思っています。それでいて、時に厳しく内容に突っ込む姿勢は学生実験等で世話になった学生諸君に十分なインパクトがあったのではないかと思っています。

先にも記したように彼は在任中は学生実験、特にソフトウェア実験を一手に引き受けていました。そのため、彼を失ったショックは心情的にも実務的にも大きなものでした。また、情報工学系のネットワークを管理する上での貢献は抜群で、系内のアドレス管理を任せきっていた私にとって、非常に大きな痛手でした。私と彼のつき合いは特にネットワーク上では頻繁で、系内のネットワーク管理の多くの部分に、彼の隠れた功績が散在しています。このように、表だった活動以上に彼の活動範囲は広く、彼の喪失を実務上最も嘆いたのは他ならぬ私だったのかも知れません。

残念ながら彼とは私的な交流はほとんどなかったもので、私生活では彼が学生の頃と変わらずバイク通勤をしていたことくらいしか知りません。しかし、早朝や深夜に彼とすれ違った時には必ず礼儀正しく挨拶を交わす好漢でした。なぜこのような人物を早逝させてしまったかと思うと残念でなりません。

歳月は彼の存在を忘却の彼方に運ぶかも知れませんが、時に思いだし淋しさに駆られることも事実でしょう。ここにあらためて貴島寿郎君のご冥福をお祈りいたします。

訃 報



略 歴	貴 島 寿 郎	昭和41年4月24日生	山口県
学 歴	平元.3	豊橋技術科学大学工学部情報工学課程卒業	
	3.3	"	大学院工学研究科修士課程情報工学専攻修了
	7.3	豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程システム情報工学専攻単位取得退学	
職 歴	7.4	豊橋技術科学大学工学部教務職員	
	9.9.9	死亡	

本学工学部教務職員貴島寿郎氏（31歳）には、9月9日（火）逝去されました。ここに故人のご冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

平成8年度

退官教官より



建設工学系 教授
小野木 重勝

白雲悠悠

7階の研究室の窓から南に広がる天伯ヶ原の広漠たる風景は、1974年に客員研究員として滞在した州立テネシー大学（ノックスビル）近傍の風景に、どこことなく似通っていた。青天に白雲が悠然と浮かぶ様子は、気宇壮大であった。17年間見慣れたこの風景ともお別れである。

豊橋技科大在任中に、私は20年来続けてきた日本近代建築史の研究を、ライフ・ワークとしてさらに続行してきた。これとは別に、当地方の東海道宿駅に着目し、その調査・研究に新たに取り組んできた。こちらは、研究室の研究として、学生諸君とともに展開したもので、建設工学系がめざす地域研究の主旨とも合致するものであった。宿駅の調査・研究では、文献史料調査に加えて、フィールド調査が不可欠である。一人で実測調査等は不可能であるので、卒論もしくは修論にまとめる分担者の調査を、研究室全員で支援する方式をとった。本陣・脇本陣などの宿駅施設遺構のほか、江戸期、明治初期の町家遺構の調査棟数は数百棟

に及んだ。煤や埃で真っ黒になりながら屋根裏や床下にもぐっての調査は大変だったが、これらの調査・研究を通じて学生諸君に、苦楽一如の学問の厳しさによるこびを体得してもらえたと思っている。また、建築に直に^{じか}触れ、住民と接触し、人情の機微に触れた経験が、実社会での建築の創作活動に少なからず役立っているだろうと確信している。17年間で愛知県下9宿、静岡県下22宿、合計31宿の調査を終えることができた。東海道五十三次のうち約60%の調査を終えたことにより、宿駅の特徴をほぼ把握できるようになった。この調査・研究は、二川宿本陣や舞坂宿脇本陣の復原保存にもつながり、地域社会に貢献することができた。

一方、授業の方は、一人で建築史全般の教科を担当しなければならなかったので、厳しいノルマを課せられた。前任地で初めて教職に就いた頃、一コマの講義に2時間の準備が必要だと聞かされた。以来つとめて2時間の準備時間を充てるように心がけてきた。それでも、フレッシュな良い講義ができたと思えるのは、年に数回あるかないかであった。

2月末、3学年の日本建設史の最終講義を終えて、数分間学生諸君にお別れの挨拶をした。別段意図していたわけではなく、自然に出てきた挨拶であった。終わると盛大な拍手を浴びていた。かつて、テネシー大学で、日本建築史の講義をした際に、拍手を受けた時と同じ感動を20数年振りに味わった。

豊橋技科大を去るに当たり、学生諸君を触発した確かな手応えを得て、充たされた思いで教室を出た。

豊橋技科大よ さようなら。

学生諸君の洋洋たる前途に栄光あれ。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第57号（H9. 3. 18発行）に掲載されたものを、ご本人及び学生課の了承を得て転載したものである。

研究室だより

熱工学講座の近況

機械システム工学専攻修士2年

福田 明

みなさんいかがお過ごしでしょうか。最近、本研究室で起きた最も大きな出来事は、後藤圭司先生の学長就任に伴い、平成8年度から旧後藤研究室と合併して新たなスタートを切ったことです。現在、本研究室は三田地紘史教授を筆頭に、鈴木孝司講師、中西康彦助手の教官3名と、修士2年6名、修士1年5名、学部4年7名の学生18名で構成され、日夜研究に励んでいます。本研究室の研究テーマは下記の3項目に大別できます。

1) 原子力発電に関する研究

- ・ プルトニウムの有効利用を目的とした熔融塩原子炉及び軽水炉の核特性についての数値シミュレーション
- ・ 熔融塩原子炉一次循環系の熱流動シミュレーション

- ・ 直接数値シミュレーションを用いた対流伝熱問題の解析
- ・ 対流伝熱問題の実験的研究
- 2) 液体の微粒化に関する研究
 - ・ 液体微粒化に関する実験研究
 - ・ 気液二相流に関する数値解析
- 3) 粉体に関する研究（旧後藤研究室から引き継いだテーマ）
 - ・ 離散要素法による非球状粒子群の運動シミュレーション
 - ・ セルラーオートマトンによるホッパー内の粒子群の運動シミュレーション

最近のトピックは、平成8年度の開学記念駅伝大会に出場したこと、平成8年10月から9年3月にかけて、インドネシアのスリウィジャヤ大学工学部のIrwin Bizzy先生が国際協力事業団の人材育成の一環として研修に来られたこと、鈴木孝司講師に次男が誕生したことです。開学記念駅伝大会には、本研究室の4人と高木研究室の助っ人1人が出場しましたが、練習の甲斐なく9位という成績に終わりました。また、Bizzy先生との交流を通して、インドネシア人は非常に信仰心が強く、日本人と生活習慣が大きく異なることを再認識しました。例えば、アルコールや肉類を口にしないこと、毎日のお祈り、断食等が挙げられますが、これは宴会幹事をしていた私には、悩みの種でもありました。更に、コミュニケーションの面では、私自身の英語力の欠如と、英会話の必要性を痛感させられました。

最後になりましたが、OBの方で豊橋市の近くまで来られることがありましたら、是非本研究室にお立ち寄り下さい。



'97年度 熱工学講座



'97年度 新メンバー

小崎・長尾研究室の近況

電気・電子工学系D2
光 本 真 一



卒業生・修了生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。皆さまはそれぞれの職場においてご活躍されていることと思います。さて、現在の小崎・長尾研究室の教員構成は小崎先生、長尾先生、村本先生と技官の日比さんの4名から成り立っています。学生構成は博士後期課程3名、修士課程16名、学部4年生8名です。小崎先生と長尾先生は相変わらずご多忙な日々を送っておられ、学生が先生に会いたいときはどこかへ出張

されている事がしばしばであり学生は涙した（なかには喜ぶ学生も……）ようなこともございました。しかし、最近では電子メールが我々の研究室にも普及したおかげで出張先の先生とも連絡がとれるようになりました。この場をお借りして電子メールを立ち上げてくれた97年度修了生の皆様にお礼申し上げます。

また、最近の小崎・長尾研は修士課程1年にハイさん（ベトナム）、研究生にナワウィさん、ダニエルさん（インドネシア）の3人の海外からの留学生が来られております。私自身これまで海外の方と接する機会が少なかったのでいろいろ勉強になります（言葉の壁はあるのですが……）。

研究室年間スケジュールは、4月の新歓コンパをはじめとした何度も繰り返されるコンパ、7月の夏ゼミ（今年は中津川研修センター）、8月の東海支部しめ切り、12月のポッキリ会、1月の全国大会しめ切り、3月の追だしコンパを柱として学生は活動しております。もちろん研究活動もしっかり行っておりますが、我が研究室の非常に良いところは在所帯であるのに皆が仲良く和気藹々としているところだと思います。この伝統は先輩方の時代から続いているので大事にしていきたいです。O.B.の皆様、研究室にお顔を出してはどうでしょうか？

また我々研究室のホームページをご覧になれる方は

<http://boss.eee.tut.ac.jp/index.html>

でお願いいたします。

複合材料工学研究室の現況

物質工学系M1
樋 口 信 三

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。私達は日々研究や勉学に励んでおります。

現在の複合研の教官構成は、竹市先生、西宮先生（共に助教授）、松本先生（助手）の3人です。堤先生は昨年より副学長（教育、研究担当）に御就任され、正式には5系を去られました。現在も私共の研究を御指導くださっています。学生構成は、博士課程が3人（1年が1人と2年が2人）、修士課程が5人（1年が

3人と2年が2人）、学部4年生が6人の計14人と若干さみしいものとなっております。しかし、来年早々にも外国人留学生2人が来る予定であり、これからどんどんにぎやかになっていくものと思われ。また、これで当研究室の外国人留学生は5人となり、研究室の国際化が進んでおります。

次に現在複合研で進められている研究について紹介します。竹市研で現在進められている研究テーマは以下のとおりです。

- (1) 耐熱性高分子の代表であるポリイミドの高性能化と高機能化
- (2) ポリマーアロイの手法によるポリ（イミド-ウレタン）およびポリ（イミド-エポキシ）の合成とその応用
- (3) ポリイミドの炭素化の手法による機能性炭素フィルムの作成
- (4) GCの液層用途を目的とする不斉認識機能を有す

る高分子の合成

(5) メタルキャピラリーの不活性化方法の開発

西宮研では、1)ゼオライト、メソポーラスFSM-16、活性炭素繊維等の細孔性固体、2)水素吸蔵合金について以下のテーマを現在進めております。

- (1) Al含有FSM-16への遷移金属錯体の導入とその機能
- (2) ミクロ細孔性固体表面の表面改質と有害有機物除去への応用
- (3) 吸着熱測定によるメソ細孔性FSM-16の親・疎水性解析
- (4) 有限、無限I.G.C.法による各種表面修飾炭素繊維表面の特性化
- (5) 金属水素化物への耐水性の付与とその特性化

最後になりましたが、当研究室の「ホームページ」が開設されました。

アドレスは<http://cm-lab.tutms.tut.ac.jp>です。もし機会が有りましたら、是非とも一度アクセスしてみてください。そしてOGおよびOBの皆さん、豊橋へ来られた時には是非本学へ、当研究室へお立ち寄り下さい。研究室一同お待ちしております。



最近の「山本研究室」は？

知識情報工学系D2

中村和明

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私どもパターン認識研究室こと山本研究室も気がつけば今年で7年目に突入しましたが、相変わらずアットホームな雰囲気は変わっておりません。よく卒業生の方々からは「山本先生も最近は厳しくなくなったよね」などとおっしゃられることも時々あります。しかし、そこはやっぱり山本先生。毎週ある研究フォローでは皆いつも尻を叩かれ、研究に励んでおります。

現在の研究室の構成は、博士課程3人、修士課程11人、学部4人の総勢18人の大所帯となっております。研究内容は大きく分けて「医用画像処理」、「文字認識」、「画像処理一般」の3グループがあり、主な研究テーマは以下のようになっております。

- ・医用画像診断支援システムの作成
- ・肺ガン病巣自動抽出
- ・画像の画質改善
- ・視覚障害者用のオンライン文字認識

さて山本研と言えば、毎年恒例の「夏のゼミ旅行」を皆様の中で思い浮かべる方もおられるのではないのでしょうか。今年は諏訪湖近辺へ行ってまいりました。私どもの研究室でのゼミ旅行の予定の中には「研究報告会」が含まれており、今年もM2やB4を中心として

1日中朝から晩まで活発な議論をして帰ってきました。後から気がつくのですが、このゼミ旅行は卒業・修了間近な人達にとってとても有意義なもので、私もこのお蔭で無事にM2を修了することができたのだと思います。

ところで、今年最も変わったことと言えば、社会人の方が博士課程へ入学され、私どもの研究室へやってきたことでしょうか（実は私も半分は同様の立場なのですが）。これまでは純粋な学生だけの研究室だったのですが、実際に職場で活躍されている方が研究室へ来たことによって、より多くの生きた情報を得ることができるようになったと思います。皆様もお忙しいかと存じますが、もし機会があれば是非ともお越し頂いて、ご指導頂きますと幸いです。一同心よりお待ち申し上げます。

最後に、私ども研究室でもホームページ

(<http://www.parl.tutkie.tut.ac.jp>)を公開しております。また、豊橋へおいでの際には是非大学へまた山本研究室へお立ち寄りください。



山本研究室（97年7月 車山山頂にて）

第46回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

日 時：平成9年6月28日～29日 当番校：静岡大学
平成9年7月5日～6日

項目	順位	優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備考	
1 陸上競技	男	静大10	名大8	三重大6	愛教大5	岐大4	豊技大3	名工大2	浜医大0		
	女	愛教大6	静大5	三重大4	岐大3	名大2	浜医大1				
2 水泳	男	名大10	愛教大8	岐大6	三重大5	静大4	浜医大3	名工大2	豊技大0		
	女	岐大8	愛教大6	浜医大5	名大4	静大3	三重大2	名工大1			
3 硬式野球		(愛教大・豊技大・三重大・名大・岐大・名工大・静大)								オープン	
4 準硬式野球		浜医大10	三重大8	(愛教大・静大5.5)		(豊技大・名大・岐大・名工大 2.5)					
5 テニス	男	浜医大10	静大8	名大6	名工大5	(愛教大・豊技大・三重大・岐大 2.5)					
	女	静大10	愛教大8	三重大6	浜医大5	(豊技大・名大・岐大・名工大 2.5)					
6 ソフトテニス	男	名大10	三重大8	岐大6	浜医大5	静大4	豊技大3	名工大2	愛教大1		
	女	岐大6	名大5	三重大4	静大3	浜医大2	愛教大1				
7 バスケットボール	男	静大10	岐大8	名大6	三重大5	愛教大4	名工大3	浜医大2	豊技大1		
	女	静大6	愛教大5	名大4	三重大3	岐大2	浜医大1				
8 バレーボール	男	愛教大10	名大8	岐大6	浜医大5	静大4	名工大3	三重大2	豊技大1		
	女	愛教大5	岐大4	三重大3	名大2	静大1					
9 卓球	男	名大8	愛教大6	静大5	三重大4	名工大3	岐大2	豊技大1			
	女	名大5	愛教大4	静大3	三重大2	岐大1					
10 バドミントン	男	岐大10	静大8	名大6	豊技大5	愛教大4	名工大3	浜医大2	三重大1		
	女	静大10	三重大8	岐大6	名大5	名工大4	愛教大3	浜医大2	豊技大1		
11 サッカー		静大10	名工大8	名大6	浜医大5	岐大4	三重大3	愛教大2	豊技大1		
12 ハンドボール		愛教大10	名大8	静大6	豊技大5	岐大4	三重大3	名工大2	浜医大1		
13 柔道		静大10	名大8	(愛教大・豊技大・三重大・浜医大・岐大・名工大 3.5)							
14 剣道	男	名大10	静大8	岐大6	愛教大5	名工大4	三重大3	浜医大2	豊技大1		
	女	岐大6	愛教大5	名大4	静大3	三重大2	浜医大1				
15 体操	男	静大6	名大5	岐大4	名工大3	愛教大2	三重大1				
	女	愛教大4	岐大3	静大2	名大1						
16 馬術		三重大6	愛教大5	名工大4	(名大・岐大・静大 2)						
17 空手道	男	浜医大8	名大6	名工大5	三重大4	豊技大3	岐大2	静大1			
	女	浜医大4	岐大3	名大2	三重大0						
18 弓道	男	名工大8	岐大6	(愛教大・三重大・浜医大・名大・静大 3)							
	女	三重大8	愛教大3	静大5	岐大4	浜医大3	名工大2	名大1			
19 アーチェリー	男	三重大4	岐大3	愛教大2	静大1						
	女	三重大4	愛教大3	岐大2	静大1						
20 少林寺拳法		(三重大・名大7)		愛教大5	静大4	岐大3	(豊技大・名工大 1.5)				
総合順位	男	名大119.5	静大109.5	岐大84.5	愛教大83.5	三重大79	名工大64.5	浜医大59.5	豊技大34		
	女	愛教大56	静大52	岐大50.5	三重大46	名大37.5	浜医大24	名工大9.5	豊技大3.5		

平成8年度 卒業・修了者就職先一覧

平成9年5月1日現在

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
一般企業					
1	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	2	2		
2	アイセロ化学(株)	2	2		
3	愛知電機(株)	1	1		
4	(株)アイデン	1	1		
5	(株)アイフルホーム・テクノロジー	1	1		
6	(株)AiHO	1	1		
7	旭化成工業(株)	1	1		
8	旭化成情報システム(株)	①	①		
9	旭化成スクラムハウス(株)	1	1		
10	旭化成ホームズ(株)	1	1		
11	旭情報サービス(株)	1	1		
12	旭テック(株)	1	1		
13	旭電化工業(株)	1	1		
14	アスモ(株)	3	3		
15	穴澤建設(株)	1	1		
16	(株)穴吹工務店	1	1		
17	(株)アーバンプランニング研究所	①	①		
18	(株)アビバジャパン	1	1		
19	(株)アマタマシーンス	1	1		
20	(株)新井組	1	1		
21	アルバイン(株)	2	2		
22	(株)アルファシステムズ	1	1		
23	(株)飯島建築事務所	1	1		
24	(株)一条工務店	①	1	①	1
25	伊藤忠テクノサイエンス(株)	①	①		
26	(株)イノアックコーポレーション	1	1		
27	イントラネットシステム(株)	1	1		
28	(株)エス・エル	1	1		
29	(株)エステック	1	1		
30	江戸川ケーブルテレビ(株)	1	1		
31	エヌエスケー・ワナー(株)	2	2		
32	NTN(株)	2	2		
33	エヌ・ティ・ティ・システム技研(株)	1	1		
34	NTT関西移動通信網(株)	1	1		
35	NTT東海移動通信網(株)	1	1		
36	(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ	1	1		
37	オーアンドケーハイテック(株)	1	1		
38	オークマ(株)	1	1	2	
39	オオサワコンピュータシステム	1	1		
40	(株)大林組	①	①		
41	(株)オーバル	1	1		
42	岡本(株)	1	1		
43	オムロン(株)	1	1		
44	オムロンソフトウェア(株)	1	1		
45	(株)オムロンライフサイエンス研究所	①	1	①	1
46	(株)金沢村田製作所	1	1		
47	カルチャーコンビニエンスクラブ(株)	1	1		
48	関西電力(株)	1	1		

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
49	(株)関西ペイント		1	1	
50	(株)きもと	1	1		
51	九州電子(株)	1	1		
52	九州電力(株)	1	1		
53	(株)キョウセイ技研	①	①		
54	京都ダイカスト工業(株)	1	1		
55	(株)京都第一科学	1	1		
56	極東開発工業(株)	1	1		
57	(株)きんでん	1	1		
58	(株)クボタ	1	1		
59	(株)熊谷組	1	1		
60	グローリー工業(株)	1	1		
61	黒崎窯業(株)	1	1		
62	群栄化学工業(株)	1	1		
63	(株)ケー・シー・エス	1	1		
64	(株)ケンウッド	1	1		
65	小糸工業(株)	1	1		
66	(株)工営舎	1	1		
67	興国インテック(株)	1	1		
68	高周波熱練(株)	1	1		
69	高知工科大学工学部	1	1		
70	(株)神戸製鋼所	2	2		
71	光洋精工(株)	1	1		
72	興和(株)	1	1		
73	コーテック(株)	1	1		
74	国際電気(株)	2	2		
75	コクヨ(株)	1	1		
76	五州薬品(株)	1	1		
77	(株)コスメック	1	1		
78	小西建築構造設計	1	1		
79	五洋建設(株)	1	1		
80	コロムビア貿易(株)	1	1		
81	酒井化学工業(株)	1	1		
82	(株)佐賀鉄工所	1	1		
83	サンエー設計(株)	1	1		
84	三協フロンティア(株)	1	1		
85	三宝電機(株)	1	1		
86	志水木工(株)	1	1		
87	システム環境計画コンサルタント(株)	1	1		
88	(株)志多組	1	1		
89	渋谷工業(株)	1	1		
90	清水建設(株)	1	1		
91	シャープ(株)	1	1		
92	ジャットコ(株)	1	1		
93	(株)昭和設計	1	1		
94	昭和電工(株)	1	1		
95	真空機工(株)	1	1		
96	神鋼電機(株)	1	1		
97	新東工業(株)	1	1	2	

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
98	新東ブレーター(株)	1	1		
99	スズキ(株)	2	2		
100	(株)鈴木楽器製作所	1	1		
101	鈴中工業(株)	1	1		
102	スター精密(株)	1	1		
103	住友金属石英工業(株)	1	1		
104	住友金属工業(株)	1	1		
105	住友電気工業(株)	1	1		
106	セイコーエプソン(株)	1	1		
107	セコム山陰(株)	1	1		
108	(株)船場	1	1		
109	ソニー(株)	3	3		
110	(株)ソフトハウスブレン	1	1		
111	(株)第一コンピュータリソース	1	1		
112	第一精工(株)	1	1		
113	第一薬品工業(株)	1	1		
114	大王製紙(株)	2	2		
115	ダイコク電機(株)	1	1		
116	(株)ダイダグ	2	2		
117	大同特殊鋼(株)	1	1		
118	ダイニック(株)	①	①		
119	大日本スクリーン製造(株)	2	2		
120	(株)ダイフク	1	1		
121	(株)太平エンジニアリング	1	1		
122	大有建設(株)	①	①		
123	太陽精機(株)	2	2		
124	高桑美術印刷(株)	1	1		
125	タカタ(株)	1	1		
126	(株)竹中工務店	①	①		
127	立山アルミニウム工業(株)	①	①		
128	田中貴金属工業(株)	1	1		
129	(株)田中組	1	1		
130	チッソ(株)	1	1		
131	中央コンサルタンツ(株)	1	1		
132	中央発條(株)	1	1		
133	中外テクノス(株)	1	1		
134	中外炉工業(株)	1	1		
135	(株)中日電子	①	①		
136	(株)中部	1	1		
137	中部ガス(株)	1	1		
138	中部テレコミュニケーション(株)	1	1		
139	中部電力(株)	1	1		
140	蝶理情報システム(株)	1	1		
141	筒中プラスチック工業(株)	1	1		
142	(株)椿本チェーン	1	1		
143	(株)鶴弥	1	1		
144	TXN九州(株)	1	1		
145	テイサン(株)	1	1		
146	(株)デンソー	2	2		

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
147	東京エレクトロン九州(株)		1	1	
148	東京エレクトロンFE(株)		2	2	
149	東京エレクトロン(株)	I			I
150	東京応化工業(株)		1	1	
151	東京コンピュータサービス(株)		1	1	
152	東京電力(株)		1	1	
153	(株)東芝		2	2	
154	東芝情報制御システム(株)		1	1	
155	東芝シリコン(株)		1	1	
156	東北エプソン(株)		1	1	
157	東洋運搬機(株)		1	1	
158	東洋自動機(株)		1	1	
159	東レ(株)		1	1	
160	(株)トーエネック		1	1	
161	(株)豊田自動織機製作所		1	1	
162	(株)トヨタテクノサービス		2	2	
163	(株)トヨタマックス		3	3	
164	豊橋建設工業(株)		1	1	
165	名古屋製酪(株)		1	1	
166	(株)ナナオ		1	1	
167	(株)ナムコ		1	1	
168	(株)成田製作所		1	1	
169	日亜化学工業(株)		1	1	
170	ニチハ(株)		1	1	
171	(株)日建技術コンサルタント		1	1	
172	(株)日研工作所		1	1	
173	ニッテツ電子(株)	I			I
174	日東工業(株)		1	1	
175	(株)ニッピ		1	1	
176	(株)ニデック		1	1	
177	日本原燃(株)		1	1	
178	日本工学院八王子専門学校		1	1	
179	日本鋼管(株)		1	1	
180	日本上下水道設計(株)		1	1	
181	日本テキサス・インスツルメンツ(株)		1	1	
182	日本テレコム(株)		1	1	
183	日本電産(株)		1	3	4
184	日本電気システム建設(株)		1	1	
185	日本電気(株)		3	3	
186	日本電気アイシーマイコンシステム(株)		1	1	
187	日本電気エンジニアリング(株)		1	1	
188	日本電気ホームエレクトロニクス(株)		1	1	
189	日本電信電話(株)	8 I			8 I
190	日本BAC(株)		1	1	
191	日本ビクター・パッカード(株)		1	1	
192	日本分光(株)		①	①	
193	(株)ニューメディア総研		1	1	
194	任天堂(株)		1	1	
195	(株)野口製作所		1	1	
196	バイオニア(株)	I			I
197	(株)ハイテック		1	1	
198	パシフィックコンサルタンツ(株)		2	2	

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
199	(株)パスコ		①	①	
200	パプコック日立(株)		1	1	
201	浜松ホトニクス(株)		1	1	
202	(株)BSNアイネット		1	1	
203	(株)ビー・ユー・ジー		1	1	
204	(有)日上鋳金塗装		1	1	
205	日立金属(株)		1	1	
206	日立建機(株)		1	1	
207	(株)日立製作所		3	3	
208	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)		1	1	
209	日立電線(株)		2	2	
210	日立マクセル(株)		1	1	2
211	(株)ヒミカ		1	1	
212	(株)ヒューズ電気計装		①	①	
213	(株)福井村田製作所		2	2	
214	富士機械製造(株)		1	1	
215	富士精工(株)		1	1	
216	富士ゼロックス(株)		② ①	② ①	
217	(株)フジタ建設コンサルタント		1	1	
218	富士通(株)		5	5	
219	富士通イー・エム・ディセミコンダクタ(株)	①			①
220	(株)富士通コンピュータテクノロジー		1	1	
221	富士通VLSI(株)		1	1	
222	富士電機(株)		1	1	
223	富士電気化学(株)		2	2	
224	富士ハウス(株)		1	1	
225	(株)フジユニバース		1	1	
226	(株)復建技術コンサルタント		1	1	
227	(株)プリチストーン		1	1	
228	北海道電力(株)		1	1	
229	本多電子(株)		①	①	
230	松下寿電子工業(株)		1	3	4
231	松下精工(株)		3	3	
232	松下電気産業(株)		6 ① I	6 ① II	6 ① III
233	松下電工(株)		1	1	
234	三井東圧化学(株)		2	2	
235	三菱化学エンジニアリング(株)		1	1	
236	三菱地所ホーム(株)		1	1	
237	三菱重工業(株)		2	2	
238	三菱電機(株)		1	1	2
239	三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)		1	1	
240	三菱農機(株)		1	1	
241	三菱レイヨン(株)		2	2	
242	ミネベア(株)		1	1	
243	ミノルタ(株)		③ ①	③ ①	
244	(株)村上開明堂		2	2	
245	(株)明輝クリーナー		1	1	
246	(株)メイテック		1	1	
247	(株)名邦テクノ		1	1	
248	(有)モノリス		1	1	
249	(株)森組		1	1	

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
250	矢崎総業(株)		2	2	
251	山口合同ガス(株)		1	1	
252	ヤマハ(株)		3	3	
253	ヤマハリビングテック(株)		1	1	
254	(株)山水設備		1	1	
255	(株)ユニフレックス	I			I
256	横河シスコン(株)		1	1	
257	横河デジタルコンピュータ(株)		1	1	
258	横河電機(株)		1	1	
259	(株)横浜ソフトウェアサービス		①	①	
260	(株)ライテック		1	1	
261	ローム(株)		1	1	
262	ローランド(株)		1	1	
小 計			54 ⑦ III	251 ⑭ VII	4 ⑳ X

国の機関							
1	四国管区警察局		1	1			
2	静岡大学			1	1		
3	東京大学大型計算機センター	①			①		
4	豊田工業高等専門学校		1	1			
5	奈良工業高等専門学校			1	1		
6	豊橋技術科学大学		3	3			
7	労働省産業安全研究所			I	I		
小 計			①	2	5	7	①
					I	I	

その他の公共機関等								
1	愛知県立大学			1	1			
2	岡山県広域水道企業団		1	1				
3	蒲郡市役所(愛知県)		1	1				
4	郡山市役所(福島県)		1	1				
5	滋賀県職員		①	①				
6	周智郡森町役場(静岡県)		1	1				
7	仙台市役所(宮城県)		①	①				
8	東京都立工業高等専門学校			1	1			
9	日本学術振興会			1	1			
10	日本放送協会		1	1				
11	野村郡別海町役場(北海道)		1	1				
12	東広島市役所(広島県)		1	1				
13	山形県立産業技術短期大学		①	①				
小 計			①	2	5	3	10	③

計	男子学生	56	258	12	326
	女子学生	9	16		25
	留学生	3	7	1	11
社会人修了・卒業者		6	5	4	15
合 計		74	286	17	377

(注) 1. 〇内は、女子学生を表す。
2. ローマ数字は、留学生を表す。

平成8年度卒業・修了者の進路状況

平成9年5月1日現在

専攻・課程	大 学 院											学 部					合 計					求 人 企 業 数	求 人 数	求 人 倍 率				
	博 士					修 士						卒 業					修 了											
	進 学		就 職	研 究 生	そ の 他	進 学		就 職	研 究 生	そ の 他	進 学		就 職	研 究 生	そ の 他	進 学		就 職	研 究 生	そ の 他								
	本 学	他 大 学	者	者	者	本 学	他 大 学	者	者	者	者	本 学	他 大 学	者	者	者	本 学	他 大 学	者	者	者							
博 士	総合エネルギー工学	7 (2)		5 (2)	1	1										7 (2)		5 (2)	1	1								
	材料システム工学	5 (1)		4 (1)	1											5 (1)		4 (1)		1								
	システム情報工学	① 10		6		① 4										① 10		6		① 4								
	機能材料工学	2 (1)		2 (1)												2 (1)		2 (1)										
小 計	① 24 (4)		17 (4)	1	① 6										① 24 (4)		17 (4)	1	① 6									
修 士	機械システム工学					① 49 (1)	1	① 48 (1)			47 (1)	37	1	8 (1)	1	① 96 (2)	38	1	① 56 (2)		1	510	534	9.5				
	生産システム工学					① 55 (2)	7	① 48 (2)			② 56 (4)	② 40		14 (4)	2	③ 111 (6)	② 47		① 62 (6)		2	498	518	8.4				
	電気・電子工学					② 51	4	① 46		① 1	② 60	② 48	1	10	1	④ 111	② 52	1	① 56		① 2	587	654	11.7				
	情報工学					② 42	1	② 38	1	2	⑦ 58	② 43	① 4	② 8	② 3	⑨ 100	② 44	① 4	④ 46	1	② 5	463	488	10.6				
	物質工学					③ 35 (1)	1	③ 34 (1)			② 40 (2)	28 (1)	3	② 7 (1)	2	⑤ 75 (3)	⑤ 29 (1)	3	⑤ 41 (2)		2	381	383	9.3				
	建設工学					⑦ 49 (1)	1	⑥ 38 (1)	1	① 9	⑪ 55	⑤ 38		② 12	④ 5	⑱ 104 (1)	⑤ 39	1	⑧ 50 (1)		⑤ 14	474	527	10.5				
	知識情報工学					③ 38	3	③ 34			⑦ 54	④ 40		③ 11	2	⑩ 92	④ 43		⑥ 45	2	2	422	429	9.5				
	エコロジー工学										③ 46	② 39	1	4	① 2	③ 46	② 39	1	4		① 2	355	358	—				
小 計					⑱ 319 (5)	18	⑰ 286 (5)	1	② 13	⑳ 416 (7)	⑰ 313 (1)	① 10	⑨ 74 (6)	2	⑦ 17	⑬ 735 (12)	⑰ 331 (1)	① 11	⑳ 360 (11)	3	⑨ 30	—	—	—				
合 計	① 24 (4)		17 (4)	1	① 6	⑱ 319 (5)	18	⑰ 286 (5)	1	② 13	⑳ 416 (7)	⑰ 313 (1)	① 10	⑨ 74 (6)	2	⑦ 17	⑬ 759 (16)	⑰ 331 (1)	① 11	⑳ 377 (15)	4	⑩ 3,690	[723] 3,891	10.8				

※ 博士の修了者には、満期退学者を含む。
 ※ () は社会人修了・卒業者を内数で表す。
 ※ ○印は女子を内数で表す。
 ※ 求人企業数で [] 内は実企業数を表す。
 ※ 博士の求人状況については、修士・学部の各系の求人状況に含まれる。

同窓会事務局より会員の皆様へ

ご挨拶

同窓会会長（2系5期） 近藤 秀 範

同窓生の皆様には、お元気でご活躍のことと存じ上げます。

同窓会報15号の発刊に際し、ご挨拶申し上げます。

今年度は、大竹先生の事故による急逝という大学としても同窓会としても衝撃的な出来事が起こりました。同窓生の皆様も新聞等でご存知かと思いますが、エコロジー工学系教授大竹一友先生におかれましては、過日、海外協力事業のための赴任先のインドネシアの航空機事故により、急逝されました。このことは、大学や地域、同窓生の間にも大きな衝撃と悲しみを与えました。また先生と同行しておられた大学の富村事務局長も大竹先生と運命を共にされました。大竹先生の大学における功績は計り知れないものがあり、先生の功德を偲び、昨年10月30日、大学葬が執り行われました。同窓会として、葬儀及び大学葬に参列し、弔慰金及び献花をもって弔意を表しました。大竹先生、富村事務局長のご冥福をお祈り申し上げます。

また、情報工学系教務職員貴島寿郎先生におかれましては、昨年9月9日逝去されました。貴島先生のご冥福をお祈り申し上げます。

過去、同窓会には、弔慰規定がなく今回の事態に際し対応をどうするかという議論があったのですが、お世話になった先生の訃報に接し、やはり同窓生を代表して弔意を表すべきとの意見が役員の間で大勢でしたので、急遽、弔慰規定を設け対応してい

くことにしました。

開学20周年記念事業へ、同窓生の皆様からたくさん寄付が集まりました。会計報告は別にさせていただきますが、同窓生のご厚志に同窓会を代表して御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、同窓会活動も早いもので15年経ちました。しかしながら、まだまだ、力の及ばないことばかりで、たくさんの課題を残しております。多くの有志の同窓生の方に役員として同窓会活動を担っていただいているのですが、精一杯やっただいて感謝しています。しかし、時間的余裕のある人は皆無なので、これ以上の作業負担は難しく、満足な活動をするには、人材が不足しているのが現状です。同窓生の皆様で、同窓会活動にご協力いただける方を募集しておりますのでよろしくお願ひします。豊橋技術科学大学と同窓会の発展のため、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後に、今回、会報の発刊が、大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。これは、大竹教授の急逝という出来事による影響もあったのですが、主に、私の作業遅延によるもので、同窓生の皆様、会報編集担当役員に多大なるご迷惑をおかけしました。ここに書中をもってお詫び申し上げます。

同窓生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

平成10年2月22日

..... 同窓会事業報告（平成8年度から平成9年度）

1. 会報の発行

平成8年度の会報（14号）については、予定から二ヵ月ほど遅れて平成9年2月に発送した。平成9年度の会報（本号）については、今年度中に発行する予定である。

2. 会員名簿の第3号の発行

会員名簿第3号は、本学の開学20周年記念にあわせ、平成8年10月に発行した。発行部数、注文部数

はそれぞれ250部、117部である。次回会員名簿第4号の発行は平成12年の予定である。

3. 卒業記念パーティの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうことを目的に、在学で構成される学友会との共催で卒業記念パーティをこれまで毎年開催してきた。パーティにかかる費用の上昇より平成8年度からパーティへの出資を15万円から25万円へ増額した。平成9

年度も引き続き実施する予定である。

4. 技科大祭への後援

在学生へ同窓会の存在をアピールすることを目的に、平成6年度から技科大祭へ資金援助を行うこととなった。平成9年度も技科大祭へ昨年と同様の資金援助を行った。

5. 本学の開学20周年記念事業への後援

平成8年度豊橋技術科学大学は開学20周年を迎えた。これを記念して大学に屋外時計塔を寄贈した。時計塔の建立費は約260万円かかった。その費用を賄うために正会員に寄付を募り、441名から約260万円の寄付が集った。

6. 会員への弔慰

平成9年9月9日同窓会役員である貴島寿郎氏（正会員）が逝去され、これに対し本会から香典・生花を送った。また、平成9年9月26日日本学エコロジー工学系大竹一友教授（特別会員）がインドネシアにて航空機事故のため逝去され、これに対し本会から香典・生花を送った。これまで本会では、会員が亡くなられたとき何の対応もしなかったが、これを機に会員へ弔意を表し、香典・生花を送る方向でガイドラインを定める予定である。

7. 平成9年度同窓会役員の構成

名誉顧問	後藤圭司	学長
会長	近藤秀範	(2系5期)
副会長	橋爪進	(2系7期)
事務局	橋爪進	(2系7期)
	戸田裕之	(2系11期)
監事	野沢隆秀	(6系11期)
	山本一伸	(6系13期)
会計担当	見目喜重	(3系11期)
	村本裕二	(3系11期)
編集担当	水嶋生智	(5系5期)
	佐藤裕久	(5系7期)
	大北博宣	(5系13期)
	武藤浩行	(5系14期)
1系担当	柳田秀記	(1系1期)
	咸本広文	(1系11期)
2系担当	近藤秀範	(2系5期)
	橋爪進	(2系7期)
	戸田裕之	(2系11期)

3系担当	見目喜重	(3系11期)
	村本裕二	(3系11期)
4系担当	中内茂樹	(4系9期)
	甲斐充彦	(4系12期)
5系担当	水嶋生智	(5系5期)
	佐藤裕久	(5系7期)
	大北博宣	(5系13期)
	武藤浩行	(5系14期)
6系担当	野沢隆秀	(6系11期)
	山本一伸	(6系13期)
7系担当	渋澤博幸	(7系1期)
	吉田浩	(7系1期)

会費の納入のお知らせ

本会の会費は平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生、修了生で、入会費または終身会費が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さるようお願いいたします。

会費

入会金	5,000円
終身会費	10,000円

振込先

1系：郵便振込	
口座番号	00830-1-133305
加入者名	豊橋技科大エネルギー工学同窓会
2系：郵便振込	
口座番号	00890-1-124555
加入者名	豊友会
3系：住友銀行	豊橋支店 普通預金
口座番号	368127
口座名	豊橋技術科学大学同窓会
4系：住友銀行	豊橋支店 普通預金
口座番号	368127
口座名	豊橋技術科学大学同窓会
5系：住友銀行	豊橋支店 普通預金
口座番号	791362
口座名	物質工学系同窓会 (代表 水嶋生智)
6系：住友銀行	豊橋支店 普通預金
口座番号	813330
加入者名	建設工学同窓会 (幹事長 高島英幸)
7系：住友銀行	豊橋支店 普通預金
口座番号	368127
口座名	豊橋技術科学大学同窓会

同窓会平成8年度収支報告および平成9年度予算案

項 目	平成8年度予算案	平成8年度決算	平成9年度予算案
■収入の部			
前年度繰越金	6,685,570	6,685,570	6,287,168
入 会 金	2,000,000	1,750,000	2,000,000
預 金 利 息	70,000	96,863	60,000
会 報 広 告 代	0	0	0
名 簿 広 告 代	30,000	30,000	0
名 簿 代	350,000	409,500	0
小 計	2,450,000	2,286,363	2,060,000
収 入 合 計	9,135,570	8,971,933	8,347,168
■支出の部			
会 報 経 費	690,000	682,000	690,000
印 刷 代	650,000	650,000	650,000
投 稿 謝 礼	40,000	32,000	40,000
広 告 依 頼	0	0	0
役 員 会 経 費	50,000	31,000	50,000
通 信 費	10,000	0	10,000
資 料 作 成 費	10,000	0	10,000
役 員 手 当	30,000	31,000	30,000
卒 業 記 念 パ ー テ ィ ー	250,000	250,000	250,000
技 科 大 祭 後 援	100,000	100,000	100,000
名 簿 管 理	400,000	412,000	420,000
庶 務 経 費	100,000	52,923	100,000
会 報 封 筒 作 成 費	—	—	100,000
20周年記念事業経費	1,000,000	12,780	—
名 簿 印 刷 代	500,000	787,500	—
名 簿 郵 送 代	50,000	42,360	—
名 簿 発 送 作 業 代	48,000	6,824	—
総 会 案 内 葉 書 代	200,000	223,000	—
総 会 案 内 ラ ベ ル 作 成 代	0	49,378	—
総 会 案 内 印 刷 代	100,000	35,000	—
小 計	3,488,000	2,684,765	1,710,000
次 年 度 繰 越 金	5,647,570	6,287,168	6,637,168
支 出 合 計	9,135,570	8,971,933	8,347,168

20周年記念事業収支報告

収 入	
寄 付 金	2,602,220
同窓会会計からの補填金	12,780
総 収 入	2,615,000
支 出	
事 務 経 費 (学 生 アル バ イ ト 代)	12,000
時 計 台 タ イ ル 建 設 費	103,000
時 計 台 建 設 費	2,500,000
総 支 出	2,615,000

20周年記念の寄付総額は2,607,220円あるが、本事業の収支報告後に5,000円の寄付があったため、この5,000円については平成9年度の雑収入として処理する。

開学20周年記念事業への寄付のお礼

同窓会会長（2系5期） 近藤 秀 範

豊橋技術科学大学の開学20周年記念事業のための募金を正会員の皆様にお願ひ致しましたところ、442名の方から2,607,220円の寄付がありました。同窓会役員を代表しましてお礼を申し上げます。皆様の寄付により20周年記念モニュメントとして時計塔を建立し、大学へ寄贈いたしました。時計塔は、前号の同窓会報（第14号）の表紙に掲載しましたように、図書館の前に建立されキャンパスを飾っています。時計には一日一回ラジオの時報により時間を合

わせる機能があり、大学の未来に向けて正確な時を刻んでおります。塔の中央部には、この度決定した新しい学章がアレンジして組み込まれており、その記念塔としての役割も担っております。時計塔の設置はかねてから望まれていたものであり、建立しました時計塔は大学の学生、職員の皆様から好評を博しているようです。最後に改めて皆様のご厚志にお礼を申し上げるとともに、今後とも同窓会へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

開学20周年寄付者名簿（敬称略、寄付年月日順）

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 福本 聖広 | 山好 光弘 | 吉加 福司 | 司人 司友 | 山長 真一 | 宮本 泰夫 |
| 島崎 昌彦 | 三好 尚文 | 藤加 藤岸 | 正人 志美 | 中田 靖嘉 | 野田 幸英 |
| 高野 敦治 | 久保 益男 | 山北 本井 | 博都 邦裕 | 富戸 文幹 | 森崎 裕孝 |
| 野田 幸史 | 庄司 裕司 | 浅大 平北 | 邦紀 之也 | 田中 波分 | 牛山 像根 |
| 富永 浩享 | 野田 幸勇 | 大北 久保 | 達也 正一 | 灘四 萩崎 | 曾田 淳一 |
| 河田 和人 | 川出 一也 | 久野 村重 | 木正 彦人 | 矢池 森隆 | 島田 後藤 |
| 長谷 川真 | 上野 和好 | 中村 太田 | 重彦 伸二 | 小野 田晃 | 大戸 清原 |
| 岸藤 慎一 | 寺田 裕一 | 太々 木誠 | 好伸 実子 | 青木 住義 | 菅原 川会 |
| 加谷 隆子 | 鈴木 利幸 | 温渡 廣山 | 周利 武人 | 大望 高祖 | 小渡 高乾 |
| 川口 克寛 | 白澤 峰雪 | 山本 越川 | 之武 正克 | 江坂 恒朝 | 川連 本口 |
| 友川 晴次 | 升方 内竹 | 山田 川田 | 之孝 茂雄 | 奈比 朝瀧 | 岡谷 鈴木 |
| 片野 研喜 | 鈴木 永吉 | 増田 口本 | 治幸 学三 | 家部 阿市 | 小林 石佐 |
| 栗原 喜久 | 矢部 野中 | 上藤 伊木 | 一宏 世彦 | 中川 本柳 | 石田 杉山 |
| 澤村 敏彦 | 水野 伸文 | 大坪 南住 | 彦人 德司 | 田柳 拔倉 | 山名 野地 |
| 高橋 秀樹 | 山田 洋晴 | 村林 上田 | 美行 次士 | 小脇 藤元 | 林野 今藤 |
| 井谷 滋彦 | 鎌田 義良 | 井澤 高日 | 行次 英武 | 松本 樋田 | 今清 鈴木 |
| 原永 男介 | 和田 央広 | 戸田 藤元 | 敏小 裕輝 | 佐松 本藤 | 常黒 中根 |
| 大福 正一 | 木村 誠文 | 水榿 加菅 | 好浩 裕典 | 元松 本藤 | 岡本 中林 |
| 芝川 豊哉 | 利文 宏康 | 菅野 武高 | 一彦 典之 | 松本 樋田 | 荒川 中林 |
| 田口 大作 | 正晋 邦彦 | 加野 富橋 | 二治 二子 | 樋田 尾安 | 田中 林荒 |
| 小牧 幸浩 | 川端 吉上 | 伊賀 中田 | 昭健 全友 | 安原 嶋林 | 中林 荒田 |
| 細野 太泰 | 吉井 小喜 | 田中 稻佐 | 全友 城友 | 嶋林 島元 | 田中 林荒 |
| 増田 悦敏 | 青木 多木 | 田山 屋村 | 隆省 学幸 | 元井 井口 | 中林 荒田 |
| 石原 史輔 | 窪田 村山 | 長今 高橋 | 仁己 一学 | 新井 長末 | 田中 林荒 |
| 早野 晃隆 | 金山 長今 | 高橋 幸治 | 美仁 一学 | 井口 長末 | 田中 林荒 |
| 清三 野村 | 高橋 幸治 | | | 末田 長末 | 田中 林荒 |
| 野村 信 | | | | 增田 長末 | 田中 林荒 |
| 浜口 本和 | | | | 千代 谷高 | 田中 林荒 |
| 山本 幸靖 | | | | 平山 平三 | 田中 林荒 |
| 和門 彦 | | | | 輪 | 田中 林荒 |

- | | | | | | |
|------|------|------|----|-----|-----|
| 後田瑞穂 | 川好 | 加藤周 | 藤太 | 久保幸 | 直井博 |
| 杉浦公彦 | 原智昭 | 黒石義 | 知義 | 野村昌 | 井藤清 |
| 蔵之内一 | 野山一勤 | 佐々木幹 | 知智 | 友友義 | 藤藤 |
| 山崎々木 | 山山 | 吉岡正 | 幹宏 | 友友政 | 佐渡 |
| 木下晋 | 宮中 | 西岡正 | 正宏 | 勝勝 | 岸本 |
| 藤倉之 | 田中 | 竹内 | 子宏 | 昭昭 | 川林 |
| 高野信 | 井木 | 早川 | 幸輝 | 悟夫 | 高山 |
| 服部和 | 武口 | 渡早 | 尚春 | 幹志 | 山口 |
| 田中司 | 成成 | 梅谷 | 航春 | 政樹 | 小川 |
| 大弘典 | 榎山 | 浅野 | 史航 | 和博 | 吉田 |
| 鈴郎泰 | 山田 | 富田 | 紀平 | 厚元 | 福福 |
| 久保田 | 兼重 | 菅角 | 啓平 | 大進 | 秦成 |
| 吉田彦 | 中山 | 西沢 | 啓平 | 一祐 | 田部 |
| 中地人 | 山場 | 川根 | 彰義 | 圭真 | 井上 |
| 金山亮 | 崎田 | 田橋 | 浩男 | 健彦 | 野野 |
| 中八二 | 増井 | 加賀 | 文浩 | 民浩 | 高日 |
| 大西志 | 松谷 | 藤西 | 滋文 | 浩章 | 伊藤 |
| 田中志 | 横井 | 辻本 | 則二 | 正己 | 二宮 |
| 磯北史 | 永木 | 山本 | 裕二 | 洋司 | 伊沢 |
| 北西英 | 鈴台 | 村野 | 郁二 | 克彦 | 井村 |
| 各務学 | 丸山 | 佐野 | 隆二 | 圭進 | 福田 |
| 小西山 | 中山 | 二宮 | 貢二 | 喜重 | 川浦 |
| 下山村 | 高嶋 | 千原 | 尚二 | 哲孝 | 大木 |
| 戸田山 | 高嶋 | 石岡 | 之敏 | 清淳 | 橋山 |
| 石森二 | 高嶋 | 岡本 | 敏年 | 淳一 | 増目 |
| 岸本助 | 高嶋 | 藤本 | 文一 | 秀男 | 所岩 |
| 吉股光 | 高嶋 | 楠村 | 博文 | 周亮 | 吉田 |
| 鎌部浩 | 高嶋 | 中村 | 文一 | 幸男 | 高橋 |
| 飯野昇 | 高嶋 | 渡田 | 治機 | 将輝 | 伊吹 |
| 山間治 | 高嶋 | 松田 | 聖児 | 敏夫 | 西岡 |
| 品川と | 高嶋 | 和泉 | 達也 | 正 | 八木 |
| 中村一 | 高嶋 | 野谷 | 充 | | 吉田 |

他3名、名前不鮮明の為、割愛させて頂きました。

求む!

投稿・表紙!!

■表紙

写真，絵，グラフィックデザイン等何でもOK!
 ・サイズ：A4判程度に縮小，拡大可能なもの。
 ※CM的な要素のものを除く。
 採用の場合は薄謝を送付致します。

■投稿

26字/行 横書き 厳守
 その他：内容・長さは問いません。写真も添えて
 いただければ幸いです。
 随時，受け付けますので下記まで送付下さい。

〒441-8580 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
 豊橋技術科学大学内
 豊橋技術科学大学同窓会事務局
 同窓会誌 編集係

■会員からの一言

同窓会では会員の皆さんからの原稿を常時募集しておりますが、執筆するとなると、それなりの内容とある程度の長さが必要であるということで、つついかしこまってしまうのではないのでしょうか。そこでもっと気楽に投稿していただけるように、「会員からの一言」というコーナーを設けたいと思います。「結婚しました」とか「?月?日OB会開催」といった簡単な近況報告や連絡事項など、内容、長さは問いません。住所変更の通知や会費振替用紙の通信欄にでも結構ですし、もちろん葉書，封書で直接送っていただければ大歓迎。原則としてすべて掲載する予定ですので、どしどしお寄せください。投稿の際には、お名前，卒業あるいは修了年度，学科名をお忘れなく!

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員からのお願いです。

同窓会事務局より 会員の皆様への御留意

最近、全国各地で豊橋技術科学大学、及び本学同窓会関連と称して下記に示す様な「詐欺」行為が行われているという報告が入ってきておりますが、本学及び本会とは一切関わりがありませんので御注意下さい。

- ①某新聞社と名乗る者が「豊橋技術科学大学二十周年記念広告」と称して寄付金を募るといふ勧誘等に関する件
- ②豊橋技術科学大学職員、本学卒業・修了生及び本学同窓会役員と名乗る者が「豊橋技術科学大学同窓会名簿を発行するため」と称して個人情報（住所、勤務先等の情報）を入手するという行為に関する件

など

私共豊橋技術科学大学同窓会事務局では名簿データの管理は厳重にしており、これまで部外者への名簿の譲渡や貸出し等は一切行っておりませんが、会員の皆様におかれましても名簿の管理には十分な御注意をお願い致します。また、本学、及び本会に関する諸連絡等は全て大学及び同窓会名義の郵便にて行われていますので御留意願います。

今後本件に関する事項等ございましたら、今一度本同窓会役員への御確認の程宜しくお願い致します。

豊橋技術科学大学同窓会事務局

熱意ある

同窓会スタッフ

を求めます

- 応募資格 : TUT修了・卒業の方
(名古屋, 豊橋近郊)
- 勤務 : 年3回程度の会議
及び自宅での作業 (約30hr/年)
- 待遇 : 同窓会規定により優遇
交通費支給
- 問い合わせ先 : TUT同窓会事務局

＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 会員名簿の発行
 - (2) 会報の発行
 - (3) 総会の開催
 - (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 - (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 - (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教員
 - (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
- 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
- (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 - (2) 会長 1名
 - (3) 副会長 2名 (庶務担当)
 - (4) 理事 原則として各系2名
 - (5) 顧問 若干名
- 第7条 本会の役員の選出は、次の各号に定めるところにより行う。
- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 - (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 - (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 - (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。
- 第8条 本会役員の任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。
- 第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 - 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 - 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。
- 第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。
- (1) 庶務
 - (2) 会計
 - (3) 会報の編集、発行
 - (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
 - (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
- 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
- 第14条 理事会は次の事項を審議する。
- (1) 本会の事業の運営に関する事項
 - (2) 事業報告及び決算報告
 - (3) 事業計画案及び予算案
 - (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 - (5) その他、本会の運営に関する議案
- 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
- 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 - 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
 - 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
- 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
- (1) 会則の制定・改廃
 - (2) 事業計画及び収支予算案
 - (3) 事業報告及び収支決算案
 - (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
- 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
- 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
- (1) 入会金 5,000円
 - (2) 終身会費 10,000円
- 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
- 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
- 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
- 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在學生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

広報担当者 様

豊橋技術科学大学同窓会誌広告掲載のご依頼

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当同窓会では、より円滑な運営を図るべく、同窓会誌に広告を掲載することに致しました。

つきましては、下記のように掲載広告を募集していますので、広報担当者にお口添えくださいますようお願い申し上げます。

発行後、見本として5冊は無料でお送りしますが、その他は有料（500円/冊）となります。6冊以上必要な場合は版下送付の際にお申し添え下さい。

ご多忙中、お手数をお掛け致しますが、宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

1997年12月15日

豊橋技術科学大学同窓会 会長 近藤 秀範

記

◎同窓会誌：A4判、30ページ程度、白黒

- (1) 内容……学内近況報告、研究室紹介、事務官より 等
- (2) 発行……年1回
- (3) 部数……約7000部 *今後500部/年で増加

◎広告掲載料：5万円/1ページ、3万円/0.5ページ

◎送付先：豊橋技術科学大学同窓会

愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1 〒441-8580

◎締め切り：'98年9月末日

◎支払い方法：銀行振込 *発行後、請求書をお送りします。

◎問い合わせ先：下記まで郵送にてお願いします。

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学同窓会 事務局